

### 第二回定例会 さとう市議

# 市民の利益第一で奮闘

## 保険証廃止前提の補正予算、 母子保護施設・しらぎく荘 廃止に反対

### 6月4日本会議討論 さとう議員

第2回定例会で日本共産党は、他党派がすべての議案に賛成するなか、12月の健康保険証の廃止に向けて、マイナンバー情報の通知経費が盛り込まれた国民健康保険と後期高齢者医療の両会計補正予算、18歳未満の児童を扶養してい



## 火葬の有料化 市民は無料の制度維持求める

### 厚生委員会 2024年5月31日 さとう議員

地方自治体が整備を担っている火葬場の火葬料金制度の今後のあり方が報告され、5月31日の厚生委員会で議論されました。

火葬場のランニングコストといえる運営経費は、火葬場の特別控え室の使用料収入や市民以外からの火葬料収入で賄わ

る母子世帯の自立のための生活支援施設・しらぎく荘を廃止する議案の3件に反対しました。

本会議討論では、老朽化から廃止とされたしらぎく荘の入所者減少の原因は、「施設の老朽化に合わせ、トイレと浴室が共同利用であるなど、入所者や入所希望者のニーズに合わない施設の構造」にあると指摘。入所の相談窓口となっている各区役所保健センターへの相談が、半年で100件を超え、年間10～20世帯の入居がある現状を考慮するなら、希望する世帯が入れないことがないように利便性がよく改築で入所者の増員が十分見込めるしらぎく荘は存続が適切で、廃止は市民利益の後退となると反対理由をのべました。

## 現行敬老パス制度の枠組み生かして／陳情の採択を

### 厚生委員会 2024年5月31日 さとう議員

現行の敬老パス制度の存続し、その枠組みを生かした制度の見直し・改善を求

れていますが、火葬件数の増加、整備・改修の経費増、控え室使用料収入の減少から、運営費支出の格差が開き、収支が悪化。市の補てん分が拡大しています。

市の金網良至施設担当部長は、これまで有料の市民以外の部分を引き上げ、無料だった市民についても火葬場の運営に係る経費負担を求めるため有料化すると説明しました。

さとう議員は、経費増が燃料費も含めた物価高騰に起因していることから、「市

民からの陳情2件が5月31日の厚生委員会で審査され、さとう綾議員は、市民の声を反映し現行制度の存続・拡充をと陳情の採択を主張しました。

市は昨年、庁内で検討してきた健康寿命延伸策として「敬老健康パス制度」創設を公表。現行の敬老パス制度は2026年3月で終了し、敬老健康パスに移行させる案を突然持ち出しました。

市が開催した意見交換会では市民から現行制度の存続・拡充を望む声が相次ぎ、さとう議員はこの日、同時に市民が健康寿命の延伸を願っていることも紹介。「市民の意見を反映させるなら、現行敬老パス制度を存続させた上で、健康寿命延伸の取り組みを並立させ、施策を別として考えるべき」とのべ、タクシーやJRでの利用拡大が図られる一方で、利用上限額が7万円から2万円に引き下げられる「敬老健康パス」素案は見直し、同時に現行制度の市内経済への波及、社会効果の検証を実施することを提案しました。

民負担よりもむしろ国からの支援が必要ではないか。施設の整備などに交付税措置や起債制度がない。国への要望などの状況は」と質問。財政措置はなく国に要望しているとの市の答弁にたいし、「火葬に係る経費に市民の税金を市民のために使うということで、市民理解得を得られる」「無料で安心して旅立てるようにするという考えである(無料の)制度の存続を」と現行通り市民については無料とすることを求めました。